

令和3年度の事業実施状況

長崎祈念館 1頁～14頁

令和3年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和4年3月末までの入館者数は、1,961,761人（一日平均299人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（12,071,343人）の16.3%である。【過去3年間の月ごとの入館者数を14ページに記載】

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
令和元年度	147,467人（474人）	106.0%	40,111人	114.0%
令和2年度 ^(注)	57,917人（194人）	39.3%	9,440人	23.5%
令和3年度 ^(注)	60,600人（250人）	104.6%	9,575人	101.4%
累計	1,961,761人（299人）	—		

（注）令和2年度は、令和2年6月1日～令和3年3月31日までの入館者数。令和3年度は、令和3年4月1日～27日、6月8日～8月9日、9月13日～令和4年1月20日、3月7日～3月31日の入館者数

※ 外国人入館者数とは、館内において外国語版のリーフレットを配布した人数を集計している（平成30年度から集計開始）。

※ 令和3年度は、令和2年度に引き続き、上記注釈でも示したとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置で断続的に臨時休館となった。（臨時休館期間：120日間）

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。長崎県市をはじめ全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

令和3年度は福岡県、佐賀県、熊本県を通じて周知を行い、登録数の増加に努めた。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
令和元年度	329人	95.9%
令和2年度	232人	70.5%
令和3年度	305人	131.4%
累計	10,235人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 年度別被爆体験記収集状況

年 度	体験記収集	対前年比
令和元年度	124 人分	213.8%
令和2年度	48 人分	38.7%
令和3年度	36 人分	75.0%
累 計	517 人分	—

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記を選定し、英語、韓国・朝鮮語、中国語に翻訳を行い、広い空間でゆっくりと閲覧できるように交流ラウンジにて実施した。

また、第9回体験記企画展「女性たちの原爆」で紹介した体験記を基に、シアター（館内交流ラウンジで放映する映像作品：約20分）を制作した。

第11回体験記企画展「浦上の記憶」

期間：令和3年11月19日～令和3年11月28日

概要：令和元年11月にローマ教皇が長崎訪問時、原爆落下中心地（浦上）について述べられた言葉を紹介しながら、爆心地、浦上地区に関係のある体験記をとりあげた。また、体験記執筆者の証言映像の放映、トークイベントもあわせて実施した。

企画展終了後に、紹介した体験記の日本語、英語、中国語、韓国語版を祈念館ホームページに掲載した。



企画展の様子（祈念館交流ラウンジ）

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行った。（平成17年度開始）

令和3年度は完成した体験記の被爆者を招いて、朗読ボランティアなどとの意見交流会

「語り継ぐ交流会」を2回実施した。

(参考) 年度別収集状況

年 度	収集数
令和元年度	56 人
令和2年度	6 人
令和3年度	21 人
累 計 (平成17年度から)	102 人



執筆補助の様子 (祈念館内)

※令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で実施。自治体などと協力し、収集に努めている。

6. 被爆者証言ビデオ制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言ビデオを制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 年度別制作・収集状況

(1) 国内

年 度	収録数	収録都道府県
令和元年度	13 人	愛知 (3 人)、群馬 (3 人)、長崎 (7 人)
令和2年度	6 人	福岡 (1 人)、長崎 (5 人)
令和3年度	7 人	東京 (1 人)、福岡 (1 人)、長崎 (5 人)
累計	421 人	

(2) 海外

年 度	収録数	国・地域
令和元年度	7 人	韓国 (3 人)、アメリカ (4 人)
令和2年度	4 人	アメリカ (3 人)、アルゼンチン (1 人)
令和3年度	3 人	アメリカ (1 人)、ブラジル (2 人)
累計	74 人	韓国 (12 人)、アメリカ (26 人)、ブラジル (22 人)、カナダ (5 人)、ボリビア (3 人)、メキシコ (1 人)、ペルー (1 人)、アルゼンチン (2 人) パラグアイ (1 人)、オランダ (1 人)

7. 多言語化対応事業

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験記、証言ビデオ等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 年度別翻訳状況【体験記】

年度	翻訳数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和元年度	5	5	5	0	15
令和2年度	5	5	5	0	15
令和3年度	4	4	4	0	12
累計	173	173	173	44	563

※「その他」フランス語7編、ドイツ語4編、イタリア語3編、スペイン語5編、ポルトガル語3編、ロシア語6編、ベンガル語1編、カザフ語1編、マレー語2編、アラビア語2編、ベトナム語3編、ハンガリー語2編、モンテネグロ語2編、オランダ語2編、ヒンドゥ語1編

【被爆者証言ビデオ】 ※ () 内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和元年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
令和2年度	3(3)	3(3)	3(3)	2(2)	11(11)
令和3年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
累計	56(24)	56(24)	56(24)	36(18)	204(90)

※「その他」オランダ語5編、ロシア語8編、フランス語8編、ドイツ語8編、アラビア語3編、ベトナム語2編、ポルトガル語2編

8. 被爆体験記の朗読事業

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成23年度から事業を開始した。収集した体験記を有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成24年度と平成25年度の2年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成26年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成27年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を

広げている。平成30年度には、第2期生育成講座を実施・完了した。

令和3年度は館内での常駐朗読および「9日を忘れない」朗読会は、8月中旬～12月および3月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（アクリル板の設置等）を講じた上で、地下1階追悼コーナーで開催した。また、第17回定期朗読会は2月に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により、臨時休館となったため延期した。

(参考) 年度別開催状況 メンバー構成 (令和4年3月末現在) 71人 (女性64人、男性7人)

年度	常駐朗読	定期朗読会 (9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他(朗読劇など)
令和元年度	174回	14回(11回)	98回(学校・団体他)	1回(Love&Peace Message)
令和2年度	88回	4回(3回)	21回(学校・団体他)	
令和3年度	48回	5回(5回)	31回(学校・団体他)	2回(意見交換会)

〈活動の様子〉



アクリル板を設置しての常駐朗読
(追悼コーナー)



朗読会「9日を忘れない」
(追悼コーナー)

9. 家族・交流証言者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」および「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外への渡航は中止し、オンラインでの講話を実施した。

(参考) 年度別実施状況【長崎市外派遣】

年度	全件数	長崎市外			
		家族・交流	朗読会	体験講話	聴講者数
令和元年度	177件	101件	76件	—	33,587人
令和2年度	56件	42件	13件	1件	9,226人
令和3年度	94件	57件	25件	12件	21,611人
累計(H30年度～)	429件	266件	150件	13件	86,102人

〈派遣の様子〉



被爆体験記朗読会【オンライン】
(7/6 福岡県北九州市尾倉中学校)



家族交流証言講話【オンライン】
(3/11 兵庫県野洲市野洲北小学校)



被爆体験講話
(10/18 佐賀県小城市桜岡小学校)

【海外派遣】

年 度	場 所	期 間	件 数	聴講者数
令和元年度	マレーシア共和国 (クアラルンプール市)	10月11日 ~10月14日	6件 ※家族・交流証言講話 3件 体験記朗読会 3件	359人
令和2年度	実施無し			
令和3年度	スペイン日本人学校 (オンライン講話)	2月17日	1件 ※被爆体験講話 1件	41人

10. 家族・交流証言者等に対する語学等の研修

来日外国人に対して、また国外においても講話や朗読が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者および被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる研修を実施した。

(参考) 被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修 ※オンラインによるグループ指導

【中・上級者向けレッスン】

- ・受講者 3人
- ・実施内容 令和3年11月～令和4年3月 隔週1回 計8回実施

【初級者向けレッスン】

- ・受講者 10人
- ・実施内容 令和3年11月～令和4年3月 隔週1回 計7回実施

11. 修学講習（被爆体験講話）の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

（参考）年度別実施状況

年度	回数	利用者数
令和元年度	153回	4,040人
令和2年度	62回	1,489人
令和3年度	81回	2,680人
累計（平成20年度から）	1,694回	43,951人

※ 会場収容人数は最大40人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。

12. 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、令和5年7月に実施予定のシステム機器の更改に当たっては、被爆者・遺族などの当事者世代の高齢化や来館者の多様化により起因する情報提供のあり方の変化に対応したより利用者視点に立った展示の見直し、併せて、新ハードウェア構成での現システムへの影響、システム改修が必要な箇所及び実現性について調査を行った。

13. 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野）の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線Q&A等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話（「被爆者健康講話」。被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供）を行っている。平成24年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部（五島市）とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ている。

令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での講演は中止とし、講師の先生が大学内で録画したものを祈念館ホームページに掲載した。

(参考) 年度別実施状況 【被爆者健康講話】

年度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
令和元年度	9回	439人	119人	558人
令和2年度	5回	—	—	—
令和3年度	6回	—	—	—
累計 (H20年度開始)	129回	4,059人	1,218人	5,277人

※令和2～3年度は、対面での実施が無いため、利用者数はカウントできず。

14. 平和関連情報の収集・整理・提供

平和への行動に参加してもらうため、来館者自身が文字や絵によるメッセージを作成し、祈念館が収集、公開する。メッセージは祈念館で長期間保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自筆式のカード記入は中止し、タブレット端末のみ感染防止対策を講じた上で開放した。

(参考) 実績

年度	収集登録数
令和元年度	3,762件
令和2年度	11件
令和3年度	814件
累計	90,010件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

15. 海外原爆展の開催

「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆60周年という節目の年にあたる平成17年度から実施している。令和3年度はドイツで実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、職員及び被爆者の渡航は中止し、展示のみの実施とした。なお、被爆体験講話については、オンラインで行った。

また、広島・長崎の両市が主催してオーストラリア(シドニー)で実施したヒロシマ・ナガサキ原爆展に、当館で製作した被爆体験記集英語300冊を提供した。

開催場所：シーボルト博物館（ドイツ・ヴェルツブルク市）

開会式では、長崎市長、長崎追悼平和祈念館長からのビデオメッセージを流した。



展示会場の様子

被爆体験講話(オンライン)

(参考) 年度別開催状況

年度	会場	場所	期間	来場者数
令和元年度	バレンシア カレッジ イーストキャンパス	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月7日 ～10月11日	3,000人
令和2年度	日本博物館 SieboldHuis	ライデン市 (オランダ王国)	R2年9月25日～ R3年2月14日	3,281人
令和3年度	シーボルト博物館	ヴェルツブルク市 (ドイツ)	10月1日 ～11月28日	350人 ^注

※注：開催期間時期、ドイツでも外出自粛期間があったため、来場者数が少なかった。

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】13か国・23都市

アメリカ4都市、スペイン1都市、ベルギー1都市、マレーシア1都市、オランダ2都市、トルコ2都市、ロシア1都市、アイスランド2都市、ニュージーランド2都市、カザフスタン3都市、ドイツ2都市、ベトナム1都市、ポルトガル1都市 【延べ来場者数】120,881人

16. 外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国・朝鮮語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう育成を行った。令和3年度は5月～9月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（オンラインやアクリル板の設置等）を講じた上で、開催した。

(参考) 年度別開催状況

年度	開催講座（）：クラス数	受講者（修了者）数
令和元年度	英語（1）、韓国語（2）、中国語（2）	40人
令和2年度	英語（1）、韓国語（2）、中国語（2）	24人
令和3年度	英語（1）、韓国語（2）、中国語（2）	27人

- ※ 令和3年度修了者内訳 英語9人(前年比+1)、
韓国語10人(前年比+0)、中国語8人(前年比+2)
 - ※ 修了者(中級以上)は(公財)長崎平和推進協会の
平和ボランティアとして登録され、依頼により当館や
資料館の案内、国際会議での対応等に派遣される。
- 〈令和3年度ボランティア登録者数〉
英語76人、韓国・朝鮮語9人、中国語16人



オンラインで開催した語学講座(英語)の様子

17. インターネット会議システムによる平和学習・交流

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の大学、自治体等との海外ピースネットも実施している。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、修学旅行で長崎に来ることができない学校(本来対象地域ではない、近県の学校も含む)を対象にオンライン修学旅行の実施も増加した。

(参考) 年度別実施状況 ※ () 内数は海外との数

年 度	回 数	利用団体数
令和元年度	21(3)回	21 団体
令和2年度	38(0)回	38 団体
令和3年度	55(5)回	57 団体
累計(平成16年度から)	472(46)回	402 団体

〈ピースネットの様子〉



2022.3.2 聖学院小学校



2021.6.19 国際ロータリー財団
平和フェロシップシンポジウム

18. 国際協力・交流プログラムの実施

「アジアの若者によるネットワーク構築プログラム」APN (The Asian Youth Peace Network Program) (以下、APN という) とは、マレーシア、韓国、中国等から教官、学生を長崎に招いて毎年2月頃に実施する事業で、名称のとおりアジアの若者による平和ネットワークの構築・拡大を目指し、平成22年度から実施している。令和3年度は「Building Community for Nuclear Abolition- Challenge Under the Pandemic コロナ禍での発信-世界を知り、社会とつながる核廃絶」をテーマに、社会と世界に向けた平和の発信を意識したプログラムを実施した。また、継続するパンデミックの状況を鑑み、2日開催とし、オンラインで実施した。

(参考) 年度別実施状況

年度	国名/招聘	期間
令和元年度	マレーシア7人、韓国5人	2月7日～2月14日
令和2年度	海外からの招聘無し (オンライン)	2月27日
令和3年度	海外からの招聘無し (オンライン)	2月25日～2月26日
累計 (平成22年度～)	マレーシア72人、韓国60人 インドネシア1人、中国人24人	—

※令和3年度オンライン参加者数：

外国人学生 (海外及び留学生)：11名、
日本人学生 (広島、沖縄、長崎から参加)：29名
計40名



19. 国際平和映画祭の開催

映画を通じて平和の大切さや被爆の継承について考える契機とするため、原爆や平和をテーマにした映画を上映している。(平成22年度開始)

令和3年度は事前の申込制とし、感染対策を講じながら実施した。3作品を上映したほか、「Sakura&Pearls」に出演した広島、長崎の被爆者とジョージ・K・ハンター監督によるオンライントークセッションも行った。

(参考) 年度別開催状況

年度	上映映画数	期間	来場者数	備考
令和元年度	2作品	12月15日	500人	
令和2年度				コロナ禍により開催中止
令和3年度	3作品	12月19日	144人	
累計	79作品	—	14,399人	

※上映作品（令和3年度）

【映画】「NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」

「ヒロシマへの誓い～サーロー節子とともに～」(2回上映)、

「Sakura&Pearls: Healing from World War II: サクラと真珠 第二次世界大戦からの癒し」

20. 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業の実施

令和3年度から、長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）に委託して、祈念館が収蔵する被爆者の体験記や原爆資料館が収蔵する写真などをデジタル化し、学生向けの教材としてインターネットで国内外の大学に提供するなど、若い世代への被爆の実相を伝える取り組みを実施した。

令和3年度は、県内外から「被爆前の長崎」をテーマとした写真を収集し、その写真を活用した映像教材制作や、米軍の航空写真を使った爆心地周辺のデジタルマップの制作に着手した。

21. その他（館内利用）

学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員による対面での説明・参加者による合唱、平和への誓いなどは行わないなどの対策を講じた上での利用とした。

（参考）実績 【追悼空間利用】※平成19年度から統計開始。

年 度	件 数 (学校数)	利用者数
令和元年度	411 件	24,139 人
令和2年度	212 件	11,038 人
令和3年度	309 件	16,644 人
累計(平成19年度～)	2,323 件	130,701 人

※その他、交流ラウンジで開催予定の多くの市民が参加するようなイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどが会場変更や中止となった。

22. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底することで、来館者が安全安心に見学できる施設の環境づくりに努めた。

- ・臨時休館：4/28～6/7、8/10～9/12、1/21～3/6の120日間
- ・主催事業の中止・延期：被爆体験記の定期朗読会は2月に実施予定だったため、次年度に

延期し、被爆者健康講話は対面での実施を中止した。

- ・感染拡大防止の取組：①各入口にサーマルカメラ（検温）・消毒液設置
- ②館内動線設定（入口から地下2階は基本一方通行）
- ③館内配布物（チラシ等）の撤去（リーフレットのみ配布）
- ④折鶴コーナー、平和へのメッセージカード記入等、不特定多数が
さわるものの撤去
- ⑤交流ラウンジの配置換え（椅子と椅子の距離をとるなど）
- ⑥総合案内にアクリル板設置等
- ⑦空気清浄機の導入（UV 殺菌）
（追悼空間、交流ラウンジ、研修室、研究室、会議室、事務室）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（原爆資料館比較）

令和元年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H31 4月	9,666	51,854	18.6%	110.0%	107.9%
R1 5月	16,758	104,208	16.1%	111.1%	109.5%
6月	15,501	56,386	27.5%	117.1%	108.8%
7月	11,592	39,242	29.5%	105.6%	115.2%
8月	14,958	65,575	22.8%	101.1%	105.6%
9月	13,418	53,959	24.9%	108.5%	102.4%
10月	22,711	108,372	21.0%	140.3%	117.4%
11月	18,465	89,317	20.7%	115.6%	107.9%
12月	9,091	48,433	18.8%	122.4%	124.3%
R2 1月	7,880	32,848	24.0%	116.7%	93.1%
2月	7,427	29,734	25.0%	98.0%	79.7%
3月		12,719	—	—	26.6%
合計	147,467	692,647	21.3%	106.0%	102.1%
累計	1,843,244	11,524,703	16.0%	—	—

祈念館臨時休館日：R2.2/29～3/31

令和2年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
R2 4月		1,106	—	—	2.1%
5月			—	—	—
6月	915	3,932	23.3%	5.9%	7.0%
7月	3,193	8,460	37.7%	27.5%	21.6%
8月	5,312	17,066	31.1%	35.5%	26.0%
9月	4,582	22,655	20.2%	34.1%	42.0%
10月	9,944	56,079	17.7%	43.8%	51.7%
11月	15,548	64,513	24.1%	84.2%	72.2%
12月	9,234	33,663	27.4%	101.6%	69.5%
R3 1月	1,519	4,249	35.7%	19.3%	12.9%
2月	1,609	4,795	33.6%	21.7%	16.1%
3月	6,061	19,792	30.6%	—	155.6%
合計	57,917	236,310	24.5%	39.3%	34.1%
累計	1,901,161	11,761,013	16.2%	—	—

祈念館臨時休館日：R2.4/1～5/31

資料館臨時休館日：R2.4.10～5/31

令和3年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
R3 4月	3,298	13,835	23.8%	—	1250.9%
5月		189	—	—	—
6月	3,351	7,050	47.5%	366.2%	179.3%
7月	6,237	17,892	34.9%	195.3%	211.5%
8月	2,389	7,704	31.0%	45.0%	45.1%
9月	2,182	6,208	35.1%	47.6%	27.4%
10月	11,309	62,837	18.0%	113.7%	112.1%
11月	14,423	91,769	15.7%	92.8%	142.2%
12月	10,038	60,461	16.6%	108.7%	179.6%
R4 1月	2,994	14,356	20.9%	197.1%	337.9%
2月		2,602	—	—	54.3%
3月	4,379	25,427	17.2%	72.2%	128.5%
合計	60,600	310,330	19.5%	104.6%	131.3%
累計	1,961,761	12,071,343	16.3%	—	—

祈念館臨時休館日：R3.4/28～6/7、8/10～9/12、R4.1/21～3/6

資料館臨時休館日：R3.4.28～5/31、8/10～9/12、R4.1/23～2/20